

# 第1 平成16年度予算編成について

## 1 経済状況について

我が国の経済状況は、設備投資や輸出に支えられ、企業収益は改善が続いており、また、個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど、景気は着実に回復している。雇用情勢は、失業率が高水準で推移し、依然として厳しいものの持ち直しの動きがみられる。

一方、本地域では、昨年末には、地元企業の経営破たんが続くなどしたが、輸送機械工業の好調さに支えられ、企業活動は総じて良好である。雇用情勢においても、失業率が他の地域より低く、有効求人倍率も比較的良好である。

## 2 財政状況の見通し

このような経済状況の中での、平成16年度の県税収入の見通しは、法人二税は景気の上向きの動きを反映し、前年度当初予算に比べ増収が見込まれるが、外形標準課税の導入による減収が見込まれることから、多くを期待することは困難である。また、基金は枯渇し、県債の活用にも制度的な限界があるため、財源対策は非常に厳しい状況である。

さらに、国のいわゆる三位一体の改革では、国の補助金見直し1兆3百億円のうち、所得譲与税として税源移譲されたものは4分の1にも満たず、特例交付金などを含めても財源措置は6割を下回っている。

地方交付税においても、平成6年度以降初めてのマイナスとなるなど、地方財政の実態を無視した結果となり、財源確保は危機的な状況である。

一方、歳出面では、行財政改革の取組は着実に進んでいるものの、義務的経費である公債費が増加するほか、地震防災対策、社会福祉対策など県民の皆様の安心を支える施策や、今後の地域の更なる飛躍につなげる行政需要に係る経費が見込まれることから、本県財政は一層厳しい状況にある。

## 3 予算編成の基本的考え方

このため今回の予算編成にあたっては、財源の積極的な確保や歳出の抑制に努めながら、事業の重点化や事務事業の見直し、合理化を進め、真に必要な分野に、限られた財源を可能な限り重点的かつ効率的に配分することを基本として、以下の施策を重点に予算編成を行った。

### (1) 「安心」、「元気」の施策

地震防災対策、食の安心・安全対策、環境対策、子育て対策、教育の新生やいじめ・児童虐待対策、さらには安全なまちづくりの推進など、県民の不安を解消し「安心」「元気」を支える施策を重点的に進める。

### (2) 「二大事業の集大成」と「愛知の一層の飛躍に向けた」施策

愛知万博と中部国際空港の二大事業の成功に向けた総仕上げと、二大事業を生かしたこの地域のさらなる魅力と将来の飛躍に向けた施策について、計画づくりや事業化を積極的に進める。